

はじめに	1
------	---

第1章 富士山の山としての特性	4
-----------------	---

第1節 富士山の構造（宮地委員）	4
------------------	---

- | | |
|-----------------|---|
| (1) 富士山はなぜ巨大なのか | 4 |
| (2) 富士山の基盤と構造 | 6 |

第2節 火山活動の歴史（宮地・小山委員）	7
----------------------	---

- | | |
|--------------------|----|
| 1 富士山の噴火史 | 7 |
| (1) 古富士火山の活動 | 7 |
| (2) 新富士火山の活動 | 8 |
| 2 歴史時代の火山活動 | 11 |
| (1) 延暦噴火と古代東海道の被災 | 11 |
| (2) 貞観噴火と富士五湖の地形変化 | 14 |
| (3) 謎の多い中世の噴火 | 17 |
| 3 富士山噴火と関東・東海地震の関係 | 19 |

コラム 更級日記の作者は富士山の噴火を見たか（小山委員）	22
------------------------------	----

第3節 富士山をめぐる人々と地域の歴史像（久保田委員）	23
-----------------------------	----

- | | |
|--------------------|----|
| (1) 富士山の開創と伝承 | 23 |
| (2) 古代における噴火と神階の授与 | 23 |
| (3) 富士信仰の進展 | 24 |
| (4) 中世の富士山と信仰・文芸 | 25 |
| (5) 戦乱・統一と富士山 | 27 |

第2章 宝永噴火の推移と噴出物	29
-----------------	----

第1節 史料に基づく宝永噴火の前兆と推移（小山委員）	29
----------------------------	----

- | | |
|----------------------|----|
| 1 絵で見る宝永の大噴火 | 29 |
| 2 文書記録からたどる宝永噴火の推移 | 32 |
| (1) 富士山麓の記録から見た噴火の推移 | 38 |

(2) 江戸の記録から見た噴火の推移.....	40
(3) 縁辺降灰域の記録から見た噴火の推移.....	43
(4) 西方遠隔地から見た噴火の推移.....	45
コラム 和暦と西暦（小山委員）.....	47
コラム 時刻の換算（小山委員）.....	49
3 宝永噴火の前兆.....	51
(1) 元禄関東地震と富士山鳴動.....	51
(2) 宝永東海地震から宝永噴火へ.....	52
4 自然現象の推移のまとめ.....	54
第2節 宝永噴火の噴出物の分布の特徴（宮地委員）.....	57
(1) 宝永噴火の噴出物の分布.....	57
(2) 江戸に降った火山灰.....	58
(3) 宝永スコリア層とその岩石化学的性質.....	59
(4) 宝永噴火の噴出率の推移.....	60
(5) 宝永火口.....	61
第3節 遺跡に認められる宝永噴火の噴出物（宮地委員）.....	62
(1) 宝永スコリアに埋まった農家.....	62
(2) 江戸の大名屋敷跡で発見された宝永スコリア.....	62
(3) 伊奈半左衛門の陣屋跡で発見された宝永スコリア.....	63
(4) 宝永スコリアに焼かれた森林.....	63
第4節 噴火に遭遇した各地の人々（小山委員）.....	64
1 東海道沿線の状況.....	64
(1) 藤沢・小田原.....	64
(2) 三島・沼津・吉原.....	66
(3) 磐田.....	67
2 北麓での状況—山梨県忍野村の人々—.....	67
3 江戸の状況.....	68

第3章 時代背景とファーストインパクト 70

第1節 宝永という時代背景（松尾委員）.....	70
(1) 元禄そして宝永.....	70

(2) 宝永落書.....	71
(3) 正徳から享保へ.....	72
第2節 幕府・小田原藩の視察と情報収集（下重委員）	73
(1) 噴火の第一報.....	73
(2) 幕府役人の現地視察.....	73
(3) 小田原藩の初動調査.....	75
(4) 小田原藩江戸詰役人の視察.....	76
コラム 江戸で風邪が流行る（下重委員）	78
第3節 「砂降り」被害（松尾・久保田・下重委員）	80
1 須走.....	80
(1) 噴火そして大火.....	80
(2) ゴーストタウンと化す.....	83
(3) 死傷者の記録.....	84
(4) 噴火後.....	84
2 山北.....	85
(1) 田畑野山一面の砂場になり.....	85
(2) 潰れ家と道路の閉鎖.....	86
(3) 関所の破損.....	87
3 小田原.....	88
(1) 昼中灯を用いる.....	88
(2) 50匁の石が降る.....	88
(3) 石砂見分帳.....	89
第4節 被災者の訴願行動（下重委員）	90
(1) 足柄104か村で願書提出.....	90
(2) 幕府への訴願取り次ぎ要求.....	90
(3) 江戸出訴.....	91
(4) 御救い米と砂掃き料の支給約束.....	91
(5) 再度の江戸出訴.....	92
(6) 品川での約束.....	93

第4章 一次災害への国家的対応と社会的影響	94
------------------------------	-----------

第1節 小田原藩の緊急救助活動（下重委員）	94
------------------------------------	-----------

(1) 被災直後の救恤.....	94
(2) 御救い米支給.....	94
(3) 城付領村の足並みの乱れ.....	95
(4) 年貢未納分の免除.....	96
第2節 幕府領編入と諸国高役金（松尾委員）	98
(1) 幕府領編入.....	98
(2) 諸国高役金.....	99
コラム 江戸時代の人にとっての領主（下重委員）	101
コラム 江戸時代の石高（下重委員）	103
第3節 復興事業（「砂除け」）の特質（松尾・下重委員）	104
1 駿河国駿東郡.....	104
(1) 須走の復興.....	104
(2) 村方亡村にまかりなり候.....	106
(3) 御救夫食石代金の打ち切りと訴願運動.....	107
(4) 伊奈忠順の配慮.....	108
2 相模国足柄上・下郡.....	109
(1) 酒匂会所の救恤策打ち切り.....	109
(2) 酒匂川の大名御手伝い普請.....	110
(3) 御林跡地への転居願い.....	111
(4) 川村・谷ヶ関所の修復.....	112
(5) 大口堤の決壊と修復.....	112
コラム 天地返し（井上委員）	114
第4節 地域社会へ与えた影響（久保田・松尾・下重委員）	116
1 信仰への影響.....	116
(1) 宝永噴火後の拝登.....	116
(2) 新たな信仰の登場.....	116
(3) 祀られた代官伊奈忠順.....	118
2 人口減少と「亡所」化.....	120
(1) 村を出た人、残った人.....	120
(2) 村々の開発状況.....	121
3 入会山野をめぐる争論.....	122
(1) 入会山野からの用益.....	122

(2) 大野原をめぐる争論.....	122
--------------------	-----

第5章 長期化する二次災害への対応 124

第1節 頻発する土砂災害と洪水（井上委員） 124

1 土砂災害はいつどこで起きたのかー土砂災害のタイプー	124
2 富士山麓での被害	127
(1) 高温の降下火砕物による家屋の焼失	127
(2) 降下火砕物の重さによる家屋の倒壊	128
(3) 田畑・草地への降灰による作物・飼料・燃料の不作と森林の荒廃	128
(4) 降下火砕物及び土砂の二次移動による用排水路の埋積	129
3 丹沢山地と酒匂川中流域における土砂災害	130
4 酒匂川下流の足柄平野における土砂災害	131
(1) 第1期（1708～1711年）	133
(2) 第2期（1711～1731年）	133
(3) 第3期（1731～1802年）	133
(4) 第4期（1802年～）	134
(5) 金井島村における土砂氾濫と復興	134
5 山北村・皆瀬川村と皆瀬川開削工事	136
6 酒匂川流域以東における土砂災害	140
(1) 二宮町 塩海川（葛川）流域	140
(2) 平塚市 金目川流域	141
(3) 秦野市 大根川・善波川流域	143
(4) 平塚市 鈴川流域	143
(5) 秦野市 菖蒲川（四十八瀬川）流域	144
(6) 藤沢市域	145
(7) 町田市 野津田村	145

コラム 元禄地震の被害状況（井上委員） 146

第2節 政権交代と享保政治（松尾委員） 147

(1) 吉宗の登場	147
(2) 大御神村の再開発	147
(3) 定免法の採用と被災地復興	148
(4) 伊奈代官支配の終焉	149

第3節 砂防・治水政策の変容（下重委員） 150

1	駿東郡における再開発支援策	150
(1)	10年後の自力開発度	150
(2)	砂除け堰と扶持米支給	151
(3)	須走神社の再建	152
2	酒匂川の大口堤	153
(1)	酒匂川の西流	153
(2)	流域村の利害対立	155
(3)	国役普請と小田原領復帰	156
(4)	田中休愚と文命堤	157
(5)	水下6か村の帰村	158
コラム 文明宮の祭礼（下重委員）		159
第4節 復興へのステップ（下重委員）		160
1	旧領への復帰	160
(1)	蓑笠之助による治水担当	160
(2)	人的被害と大口閉め切り	161
(3)	地域秩序の回復	162
(4)	小田原藩領復帰と地押し改め	163
(5)	御厨領の復興状況	163
(6)	小田原藩城付領の回復	164
2	須山口登山道の復活	165
(1)	元文5年縁年と須山口	165
(2)	登山道再開までの経緯	166

おわりに	～富士山宝永噴火の教訓～（全委員、事務局）	168
-------------	------------------------------	------------

1	過去の噴火履歴からの教訓	168
2	宝永噴火の推移からの教訓	168
3	災害への対応からの教訓	169
4	頻発する土砂災害と洪水の要点と教訓	170

資料編	171
------------	------------

付録1	参考文献	171
付録2	古文書記録より整理した堆積深（井上委員）	176
付録3	江戸期における酒匂川水系（相模国）水害年表・グラフ（下重委員）	184

図表等目次

口絵1	南東側山腹から見た宝永山と宝永火口	i
口絵2	宝永噴火で噴出した火山灰層分布	i
口絵3～5	宝永噴火を描いた絵図	ii
口絵6	富士山宝永噴火之図	iii
口絵7	大日堂付近の宝永スコリアの堆積状況	iii
口絵8	富士山東南麓における二ツ塚南トレンチの剥ぎ取り断面	iv
口絵9	河村城跡の「天地返し」の遺構	v
口絵10	宝永火山灰天地返しの模式図	v
口絵11	享保5（1720）年相州酒匂川本通川除御普請御願絵図（写）	vi
口絵12	享保18（1733）年相州酒匂川東通河除御普請御願絵図	vi
口絵13	大口堤上の文命堤東碑	vii
口絵14	岩流瀬堤上の文命西碑	vii
口絵15	吉田島祖師堂そばに残る水神	vii
口絵16	川丈六地蔵の一つ多古の「おそっさん」	vii
口絵17～18	相模国足柄上下郡酒匂川・川音川・狩川・早川堤絵図	viii
図1-1	沈み込むフィリピン海プレートの形状	5
図1-2	富士山の構造	6
図1-3	新富士火山の噴火ステージ	9
写真1-1	静岡市付近で発掘された古代東海道	12
図1-4	推定された延暦噴火の噴出物分布と、延暦噴火の影響による古代東海道の経路変更の様子	13
表1-1	歴史時代における富士山の噴火記録（信頼性の高いもののみ）の文字数	14
写真1-2	本栖湖に流入した貞観噴火の溶岩流の先端部分	15
図1-5	貞観噴火の推移	16
図1-6	歴史時代の富士山の火山活動年表	17
図1-7	火山で生じる異常現象が、火山の近くで起きる大地震と影響しあうメカニズムを説明する図	21
写真1-3	富士山頂（内院）	26
写真2-1	宝永噴火を描いた絵図（その1）昼の情景	30
写真2-2	宝永噴火を描いた絵図（その2）夜の情景	30
写真2-3	宝永噴火を描いた絵図（その3）噴火直後の情景	30
写真2-4	南南東側の地点⑫のやや西方から見た現在の富士山	31
図2-1	富士山周辺の地図	33
表2-1	宝永噴火の推移	34
写真2-5	『土屋伊太夫噴火事情書』の一部	38

写真 2-6	『伊東志摩守日記』の一部	41
写真 2-7	『伊能景利日記』の一部	41
図 2-2	宝永噴火当時に使用されていた時刻（不定時法の民用時）を、現代の明石標準時に換算する方法を説明した図	50
図 2-3	関東地震・東海地震・南海地震の震源域と富士山の位置関係	52
図 2-4	宝永噴火に関係した地震のうち、史料記述から震度分布がわかるものを図示したもの	56
図 2-5	宝永噴火による降灰分布	57
図 2-6	噴火初日に降った軽石の最大平均粒径（mm）	58
図 2-7	宝永スコリアの細分と形成時間、体積及び岩石化学的性質	59
図 2-8	宝永噴火の噴出率の推移	60
表 2-2	東海道を旅行中に宝永噴火に遭遇した旅人の記録	64
表 3-1	元禄～宝永期の主な災害	70
写真 3-1	幕末の須走村[ベアト撮影]	81
図 3-1	須走村家並み図	82
表 3-2	永塚村の降灰除去に必要な労働力	89
表 4-1	須走村への家作御救金	105
表 4-2	砂降り後の御手伝い普請一覧	110
図 4-1	街道・関所配置概念図	111
図 4-2	堤防の概念図	112
写真 4-1	「天地返し」の遺構	114
図 4-3	「天地返し」の模式図	115
写真 4-2	富士講の御師の家まつられている富士山の御神体（小山町須走）	117
写真 4-3	伊奈神社（小山町須走）	119
表 4-3	正徳 2（1712）年の家数・人数・馬数	120
表 4-4	正徳 5（1715）年の田畑開発状況	121
表 4-5	大野原を入会利用した村々	123
表 5-1	富士山宝永噴火後の主な土砂災害地点一覧表	125
図 5-1	富士山宝永噴火後の主な土砂災害発生地点	126
図 5-2	足柄平野における宝永噴火後の洪水範囲	132
図 5-3	金井島村の年貢上納高の推移	135
図 5-4	山北・皆瀬川付近図	136
図 5-5	相模国足柄上郡山北村絵図（宝永以前）	137
図 5-6	天保 7（1836）年相模国足柄上郡山北村絵図	139
図 5-7	塩海川流域の被害村々	141
図 5-8	金目川流域の被害村々	142
図 5-9	菖蒲川流域の被害村々	144
図 5-10	小山町域の村々	150

図5-11	御厨14か村の砂除け進捗状況（享保元年）	151
図5-12	現在の酒匂川を中心とする河川図	154
図5-13	新川通りの村々	155
図5-14	大口堤・岩流瀬堤	157
図5-15	弁慶杵	157
写真5-1	文命堤東碑	159
図5-16	川音川と十文字堤	160
写真5-2	享保19年8月水害供養塔（珠明寺／南足柄市班目）	161
図5-17	富士山登山道と登山口	165
図5-18	復活した須山口登山道	166
付録2 表	古文書記録より整理した堆積深	176
付図	下鶴(1981)の宝永テフラの等層厚線図	183
付録3 表	江戸期における酒匂川水系（相模国）水害年表・グラフ	184
付図	年代別酒匂川水系水害回数	185